

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-141	12-128	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
<b>題名 (原題/訳)</b>		
A large-scale meta-analysis of the association between the ANKK1/DRD2 Taq1A polymorphism and alcohol dependence. ANKK1/DRD2 Taq1A 多型とアルコール依存症との関連に関する大規模メタアナリシス		
<b>執筆者</b>		
Wang F, Simen A, Arias A, Lu QW, Zhang H.		
<b>掲載誌</b>		
Hum Genet. 2013 Mar;132(3):347-58		
<b>キーワード</b>		
アルコール依存症、Taq1A 多型、メタ分析		
<b>要 旨</b>		
<p><b>目的：</b></p> <p>アルコール依存症 (AD) は遺伝する可能性が高い精神神経疾患である。多くの研究で (遺伝子クラスター ANKK1/DRD2 に位置する) Taq1A 多型と AD との関連が分析されている。本研究では 2012 年 8 月までに発表された 61 の症例対照研究、18,000 人を越える対象者に対し、AD のリスクと Taq1A 多型との関連を検証するために大規模なメタ分析を実施した。</p> <p><b>方法と結果：</b></p> <p>メタアナリシスにより Taq1A 多型と AD 感受性の間の対立遺伝子、遺伝子型の両方の関連を検討した (対立遺伝子 : <math>P(Z) = 1.1 \times 10^{-5}</math>, <math>OR = 1.19</math>; 遺伝子型 : <math>P(Z) = 3.2 \times 10^{-5}</math>, <math>OR = 1.24</math>)。この関連は Trim and fill 法を用いて出版バイアスを調整した後も有意であった。感度分析により、Taq1A 多型の AD リスクに対する影響の大きさは中程度であり、個々の研究によって影響を受けないことが示された。発表された研究を用い算出されたプール化オッズ比は発行年とともに減少したが、2001 年後以降は安定化した。サブグループ解析によって、出版バイアスには人種由来の祖先の影響の可能性が示された。</p> <p><b>結論：</b></p> <p>この大規模なメタアナリシスによって、Taq1A 多型と AD に関連があることが検証された。今後の研究では、AD における ANKK1/DRD2 Taq1A 多型の機能的意義の検討が求められている。</p>		